

ご議論いただきたい事項について

検討小委員会の論点と中間レポート(案)における課題への対応の方向性の関係

検討小委員会の論点	中間レポート(案)における課題への対応の方向性	ページ
論点1 東アジアにおける九州圏の自立と連携	第1節(1、2) 東アジア等の経済発展と連動し自立的に発展する九州圏の形成	.. 1
論点6 維持・保全が危ぶまれる集落における将来選択	第2節(2)② 離島半島、中山間地域等の地理的制約の厳しい地域の再生	.. 2
論点9 地域の子育て力の強化	第2節(2)③ 維持・保全が危ぶまれる集落における将来選択	.. 3
	第3節(2)② 子育てから高齢者までゆとりと安心が享受できる生活環境の創出	.. 4
論点2 地域資源の発掘、再評価、磨きによる地域力の結集	第3節(1)② 恵まれた地域資源を最大限に活用した先導的な地域づくりの推進	.. 5
論点3 持続可能で暮らしやすい都市圏の形成	第2節(1)① 地域の魅力、豊かな暮らしを支える基幹都市の形成	.. 6
論点4 美しく暮らしやすい農山漁村の形成と農林水産業の新たな展開	第2節(2)① 美しく暮らしやすい農山漁村の形成と地域を支える産業の新たな展開	.. 7
論点5 自立的な地域の機能補完的・戦略的な連携	第2節(1)② 自立的な生活圏域と機能補完・戦略的な連携	.. 8
論点7 多様なライフスタイルを実現する交流・連携と定住の促進	第2節(1)③ 都市機能を連結する広域的な地域連携軸の形成	.. 9
論点8 住民主体の発意・活動による自助努力による地域づくり	第3節(2)① 都市と自然が享受できる交流連携の推進と豊かな二地域居住、定住環境の形成	..10
	第3節(1)① 民間主体の発意・活動を重視した自助努力による地域づくり	..11

第2章第1節(1、2) 東アジア等の経済発展と連動し自立的に発展する九州圏の形成

- 東アジアとは歴史的、地理的、経済的つながりが強く今後ともその傾向は強まっていく傾向
- 拠点都市間の交流連携、国際的なイベントや自治体間の草の根交流等の活発化

交流連携の推進

- ・九州圏が有する地域資源を通じた多様で魅力ある国際交流の進展

先導的役割の発揮

- ・国境を越えたアジア共通問題の解決による存在感の向上

ゲートウェイ機能強化

- ・人的・物的・経済的・技術的などの各分野での交流連携機能の強化

▼福岡空港における日帰り圏の増加

- 福岡空港では、1990年においては日帰り可能な海外都市はなかったが、2004年10月にはソウル・上海と日帰りが可能となり、確実に日帰りが可能となる圏域が拡大



東アジア等との交流連携の深化により自立的に発展する九州圏の形成

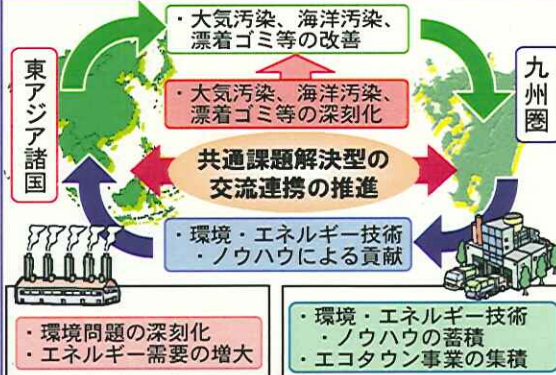
多様で魅力ある国際交流拠点の形成

- ・豊かな自然、歴史・文化等の地域資源の活用
- ・多様な主体、地域の関係深化と新たな文化創造



東アジアにおける共通課題への対応

- ・環境、エネルギー、資源に関する技術、ノウハウが集積する拠点として発展



拠点性の高い都市圏の国際交流機能強化

- ・知力、文化力や情報発信力の向上による九州圏全体の牽引機能の強化

東アジアへのゲートウェイ機能の充実・強化

多地域・多頻度・多経路の交通基盤強化

- ・九州圏の拠点性の高い都市と東アジアの主要都市とを直結した観光・交流連携の実現



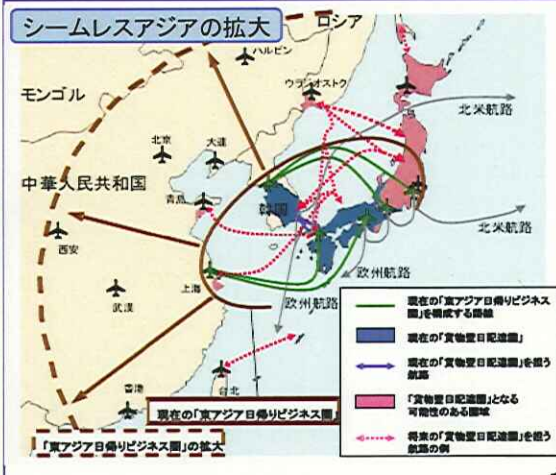
国際情報通信基盤の強化

- ・ICT（情報通信技術）を活用した情報発信機能の強化



シームレスな国際交流連携軸の形成

- ・東アジア1日交流圏の拡大
- ・日帰りビジネス圏、貨物翌日配達圏の拡大



第2章第2節(2)② 離島半島、中山間地域等の地理的制約の厳しい地域の再生

- 長崎県、鹿児島県を中心に広く分布する離島・半島では、地理的制約が強く、農林水産業等の就業比率が高く工業集積度が極めて低い
- 九州山地に広く分布する中山間地域等は、農林業等の主要産業や生活活動の維持が困難

生活所得の確保

- ・若年層にも魅力ある雇用機会の確保

救急医療の向上

- ・低密度で高齢化が進展する地域の医療・福祉等の確保

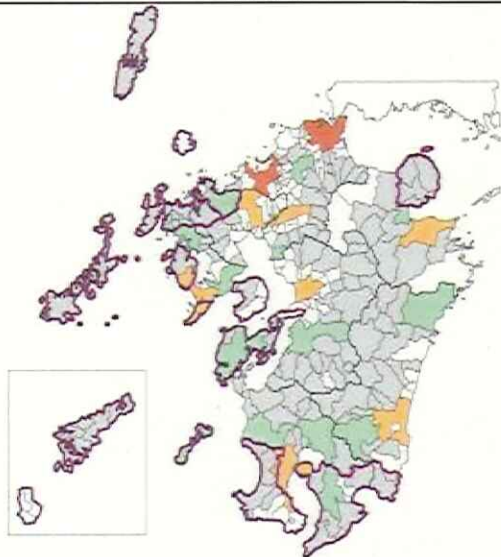
交通・通信の確保

- ・都市部への公共交通、交通基盤の確保、情報格差の是正

▼九州圏における中山間地域、離島半島の分布（灰色）

凡例

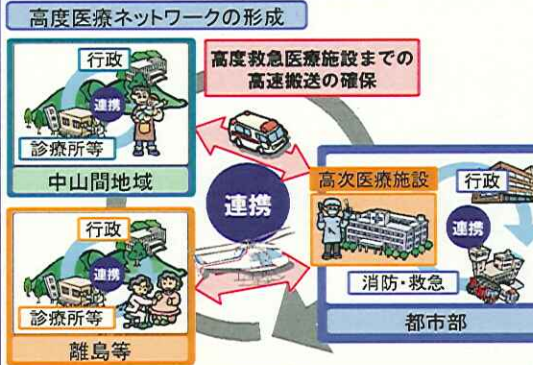
- 地方中枢・中核都市（人口が概ね100万人以上の都市）
- 地方中枢・中核都市（人口が概ね30万人以上の都市）
- 人口が概ね10万人以上の都市
- 中山間地域 農業地域類型（中間・山間農業地域）
- 離島・半島地域 離島振興法指定（市町村全部指定のみ表示）
奄美群島振興開発特別措置法指定
半島振興法指定



■離島半島等の地理的制約を克服する魅力ある雇用機会と社会的サービスの確保

■高次医療から日常医療・福祉機能の確保

- ・ドクターヘリを活用した緊急輸送、情報通信技術を活用した遠隔医療等の導入



■国境・国際離島の重要性を勘案した対策

- ・国防や領海での海洋資源の保全といった国益上の機能を勘案した対策の推進

■若年層にも魅力ある就業機会の確保

- ・農林水産業、観光産業等の既存産業の振興
- ・健康と癒し等のニーズに応じた個性の発揮



■九州本土までの交通手段の確保

- ・九州本土との重要な交通手段である定期航路・定期空路の確保



■中山間地域等における日常生活の確保と生活イノベーションの推進

■基幹産業である農林業等の振興

- ・農林水産業、観光産業等の既存産業の振興
- ・複数産業の兼業による所得機会の確保



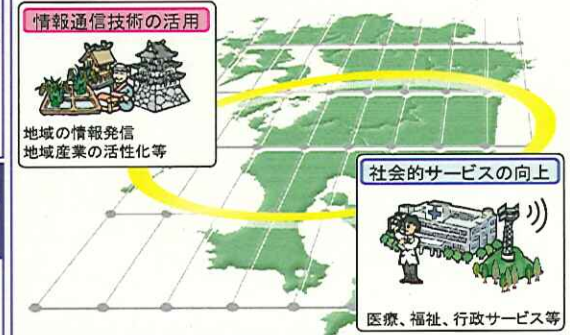
■都市部までの交通・生活交通手段の確保

- ・都市部までの安全・快適な道路等の確保
- ・生活を支える公共交通・道路の確保



■情報化による生活イノベーションの展開

- ・情報通信技術の活用による社会的サービス確保
- ・情報通信技術の活用による雇用機会、所得機会の向上



■都市との交流連携、UJターン推進

- ・都市との交流連携による地域の活性化
- ・UJターンの推進による担い手の確保

第2章第2節(2)③ 維持・保全が危ぶまれる集落における将来選択

- 多くの集落では、高齢者をはじめとする住民の買い物、地域交通、医療・福祉等の日常生活や冠婚葬祭等への対応が困難
- 歴史伝統や生活文化の喪失、農用地や森林の荒廃、災害への対応力の低下などが顕在化

生活に必要な社会的サービスの確保

- ・住民ニーズに対応した安心して生活できる生活環境の確保

生活所得の確保

- ・集落において継続的に生活を営むための生活所得の確保

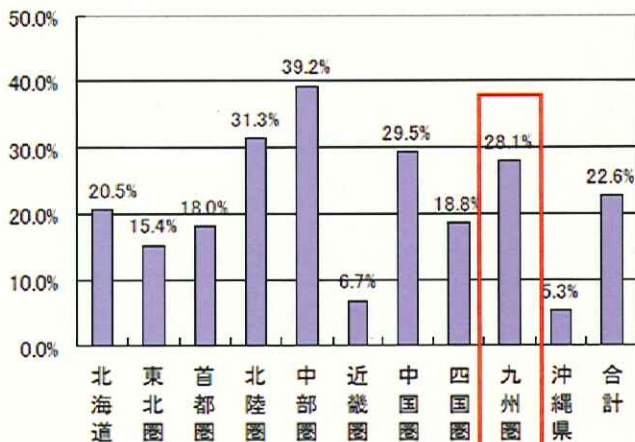
集落の将来選択

- ・地域の実情に応じた集落の維持・保全と集落の将来選択への対応

▼集落の再編成の見通しがある市町村数の割合

- 今後10年間に於いて集落の再編成の見通しがある市町村の割合について、九州圏は中部圏、北陸圏や中国圏について集落再編を必要とする市町村が多い

- 再編内容は、行政的な再編の意向が強い傾向



■集落における生活活動・生活水準を維持するための対応

■地域の持続的な生活活動の維持・交流連携の推進

- ・生活に必要な社会的サービスの確保による安心できる生活環境の形成
- ・広域的な資金循環や担い手、社会的サービス確保のための都市や近接地域との地域連携軸の形成



■従来の家族世帯が担ってきた機能の再認識

- ・子育て、高齢者福祉、就労等の伝統的な多世代同居が担ってきた機能の再認識



■生活産業による継続的な所得機会の確保

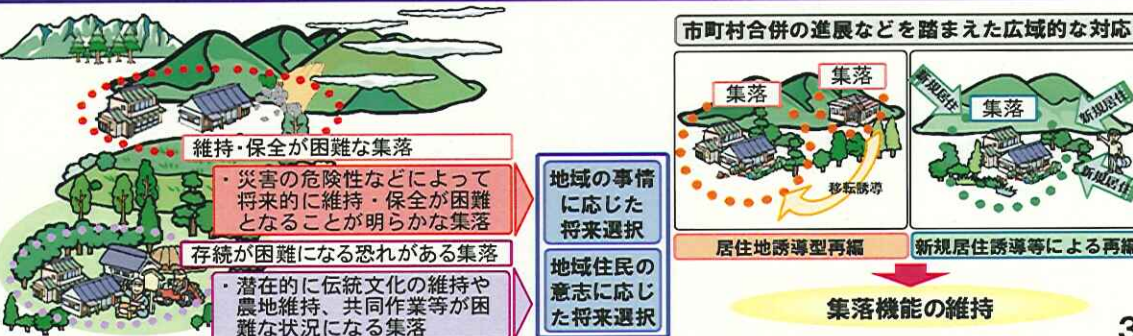
- ・農林水産業と食品加工、卸売・小売り、観光・レジャーや社会的サービス等の生活を基軸とした複数産業の兼業による所得機会の確保



■将来的な存続が困難な集落の将来選択

■地域の実情と住民意思に応じた将来選択と潜在的に維持・保全が困難な集落への対応

- ・市町村合併の進展などを踏まえた広域的な対応や集落移転、移転誘導による居住地移動型再編、新規居住誘導による再編等の将来選択への対応
- ・伝統文化、農地の維持等において困難となる状況を未然に回避するための具体的な対応



第2章第3節(2)② 子育てから高齢者までゆとりと安心が享受できる生活環境の創出

- 都市部を中心として、人口減少・高齢化、核家族化地域連帯意識の希薄化等の進行による子育て、高齢者に対するニーズや問題が多様化
- 離島、中山間地域等では、人口減少が進行する中で豊かな子育て環境が健在である地域も存在

社会的な絆の再生

- ・地域の一体的な取組による子どもや高齢者を取り巻く希薄な環境の改善

多選択社会の実現

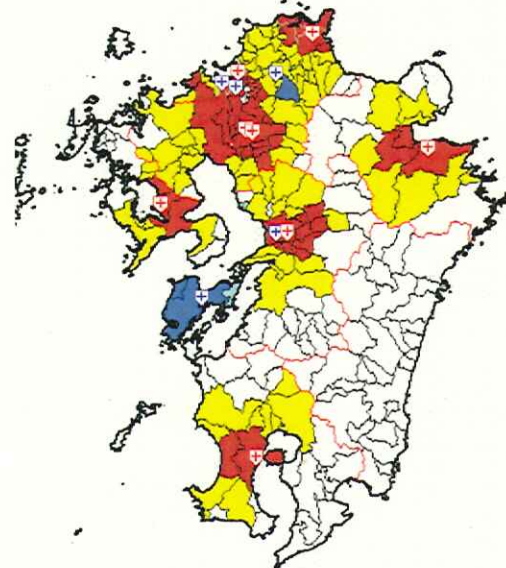
- ・子育て世代等の仕事と家庭の両立を支援する地域社会の実現

社会的サービスの確保

- ・子育て医療から高齢者福祉までゆとりと安心が享受できる社会的サービスの確保

▼周産期医療施設1時間圏

凡例		
	: 30分圏(総合)	+ : 総合周産期母子医療センター
	: 30分圏(地域)	+ : 地域周産期母子医療センター
	: 60分圏(総合)	
	: 60分圏(地域)	



■子どもから高齢者まで安心とゆとりが享受できる生活環境の形成

■意欲に応じて社会参加し自主的で多様な生きがいを感じられる地域社会の実現

- ・子どもや家庭を取巻く環境の改善
- ・高齢者、障害者等の就業機会確保のための環境整備やスポーツ活動、ボランティア活動等、地域社会への参加を容易にする環境整備



■都市部等における新たな子育て支援環境の形成

■子育て世帯が地域社会と密接に関わり合いながら子育てが行える環境の構築

- ・子どもと高齢者等間の世代間交流や子どもが社会に関心を持つための各種体験活動等の推進
- ・相談や情報交換により地域で子育て問題を解決していくための子育てネットワークづくりの推進
- ・ゆとりある子育て居住空間の確保



■多様な働き方、住まい方に応じたライフ・ワーク・バランスの実現

■多様な働き方、住まい方等を可能とする多選択社会の実現

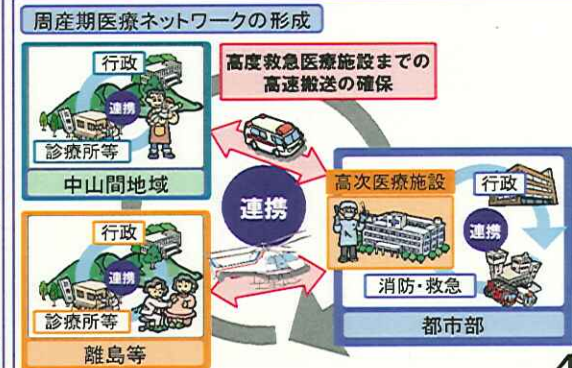
- ・居住環境の選択可能性の向上や高速な移動を可能とする交通手段の確保
- ・テレワークや生活圏における雇用確保等の充実



■地理的条件が厳しい地域等における安心して出産、子育てが行える環境の形成

■高度救急医療機能を享受できるアクセス環境の構築

- ・妊婦、小児への高度救急医療施設まで広域的な観点からの高速搬送手段の確保や機能配分等の推進
- ・医療施設までの通院等を支援する公共交通、生活道路整備の推進



第2章第3節(1)② 恵まれた地域資源を最大限に活用した先導的な地域づくりの推進

- 都市部における伝統的な建造物やまち並み、農山漁村等における特色ある伝統芸能、生活文化、自然環境等の豊富な地域資源
- 競争力の高い資源を発掘、再評価、磨き、地域への愛着を醸成させる先導的な地域づくりの進展

地域アイデンティティの醸成

- ・それぞれの地域が地域特性を生かしながら発展していくための取組の展開

取組みのネットワーク化

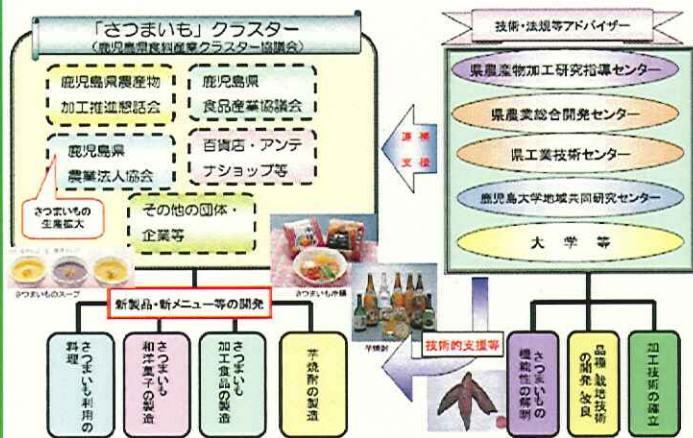
- ・小さな取組を大きなネットワークに組み込むなど、複数地域の連携による総合力の発揮

新たな価値の創造

- ・地域において培われた資源に新たな付加価値を創造し、地域づくりを促進

▼地域資源を活用した新たな価値の創造(事例)

- コーディネータを中心に地域の食材、人材、技術、その他の地域資源を結びつけ、地域の農林水産業と食品産業等の連携を促進する食料産業クラスターへの取組を実施
- 鹿児島県では、県や大学とも連携して、さつまいもの生産拡大と新商品開発に取組む、新たな動きに発展



■恵まれた地域資源を最大限に発揮する地域独自の取組の推進

■地域雇用確保、地域のアイデンティティの醸成

- ・歴史文化等の保存活用、伝統文化に根ざした祭りや郷土料理によるおもてなし等による活発化



- ・文化・伝統に根ざした祭りや郷土料理によるおもてなしによる地域づくりの活性化

地域アイデンティティの醸成
地域雇用の確保

■既存の地域資源の活用

- ・耕作放棄地等の遊休資源活用を含め、棚田や里山等の文化的、二次的自然景観の保全と活用

- ・生活や生業を営む中で自然に働きかけ創り出された二次的自然景観も有効な資源



観光客の増加
地域雇用の確保

地域資源を生かした魅力創出

■先導的な地域づくりを結び九州圏の総合力を発揮する取組の推進

■地域資源や活動のネットワーク化の促進による総合力の発揮

- ・温泉、火山、高原等の特性に飛んだ地形、歴史遺産等の歴史・産業に根ざした地域資源など共通する資源の広域的連携や活動のネットワーク化による取組の推進
- ・国際的、広域的に魅力ある交流都市、観光拠点等と周辺地域が一体となる活動のネットワーク化の推進



■新たな価値の創造による継続的な地域づくりの展開

■地域資源を生かした新たな価値の創造

- ・地域のものづくり文化との融合や感性産業との融合による新たな産業や製品の創出
- ・第一産業から第三次産業までの融合を進め、地域経済に新たな付加価値の形成を促進



■継続的な地域づくりを支える交流連携

- ・地域づくりにおける新たな価値が創造される機会を創出するための広域的な交流連携や情報発信、共有の推進



第2章第2節(1)① 地域の魅力、豊かな暮らしを支える基幹都市の形成

- 九州北部の福岡・北九州都市圏を中心として、九州全体を牽引する多様な高次都市機能が集積
- 県庁所在地等を核とする基幹都市圏において、広域的な高次都市機能と地域の個性、魅力が集積
- 都市機能の拡散と中心市街地の空洞化が進展

国際・広域拠点の形成

- ・高次都市機能の集積による国際・広域交流拠点の形成

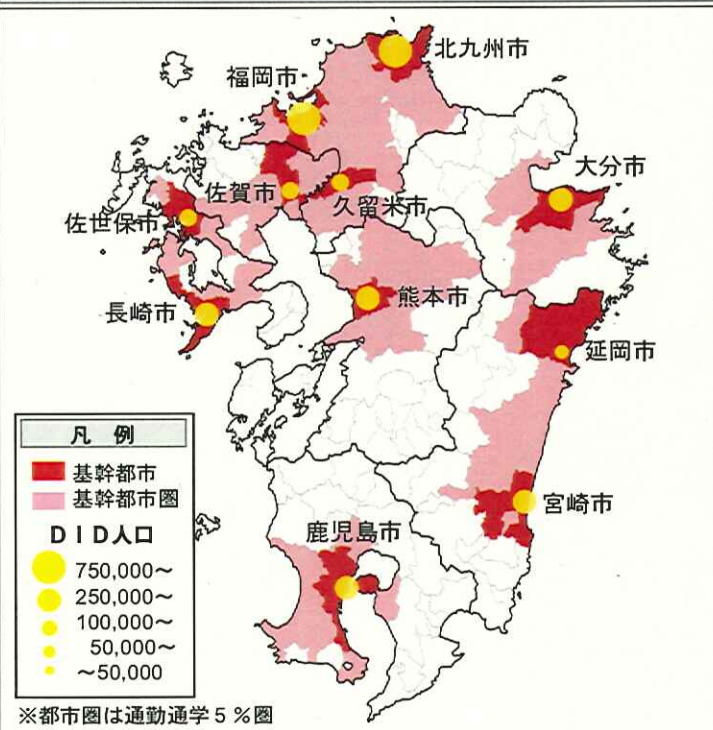
都市構造の集約化

- ・人口減少・高齢化等に対応した都市構造の集約化

都市の暮らしやすさ

- ・基幹都市圏等の過密への対応と暮らしやすさの確保

▼基幹都市圏の分布状況



■国際・広域拠点として魅力ある基幹都市圏の形成

■国際・広域拠点として機能を充実・強化

- ・九州北部の都市圏では、東アジア等の国際交流・文化拠点、国際物流・技術拠点として発展
- ・基幹都市圏では、都市の規模、配置状況に応じた多地域・多頻度・多経路の国際交流機能を強化



■人口減少・高齢化に対応した暮らしやすい集約型都市構造への転換

■集約型都市構造への転換

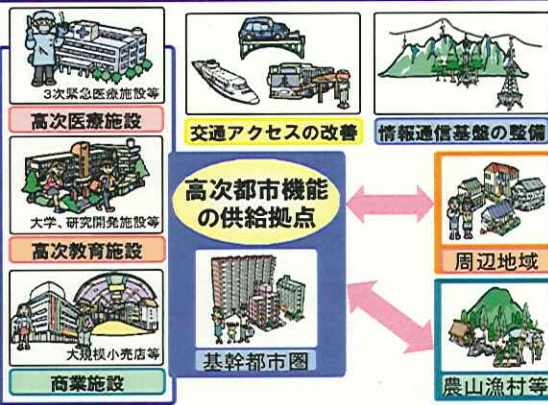
- ・既存ストックの活用や市街地の再開発等による集約型都市構造への転換
- ・中心市街地の商業活動の活性化、高齢者等の都市型居住等の推進



■基幹都市圏における広域的な高次都市機能の集積と利便性の向上

■基幹都市圏における高次都市機能の集積

- ・基幹都市圏において、高次の医療・福祉、教育等の社会的サービスを強化
- ・広域的な交通アクセスを改善



■基幹都市圏における暮らしやすさの確保

■快適で魅力的な都市空間の形成

- ・都市の骨格となる道路整備、交通渋滞の軽減
- ・公共交通の結節機能の強化
- ・情報通信技術による交通利便性の向上



■安全で快適な居住空間の形成

- ・公共施設、住宅・建築物等へのユニバーサルデザインの導入
- ・水と緑豊かで景観に配慮した居住環境の形成



第2章第2節(2)① 美しく暮らしやすい農山漁村の形成と地域を支える産業の新たな展開

- 農山漁村は、温暖な気候と緑豊かな自然とそこに住む人々の暮らしの知恵や独自の文化が存在
- 農林水産業の従事者の減少や高齢化等により農山漁村の活力は低下

持続可能な農山漁村の運営

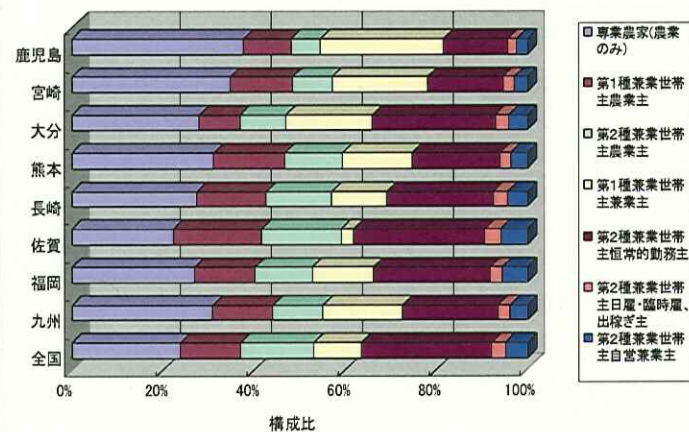
- ・ 農山漁村の生活活動や土地の利用状況、住民のライフスタイルから生まれる多様な魅力の再認識

地域を支える産業の多様なニーズに対応した発展

- ・ 持続可能な農山漁村の運営を支える基盤となる農林水産業を多様なニーズに対応しながら発展

▼九州圏の農家の世帯主の主要

- 農業地域の実態として、世帯主が農業だけに従事している農家は全国で24%、九州圏で31%程度であり、農業を主としている農家を含めると5割強(全国53%、九州圏55%)
- その他の農家では、世帯主が他産業の従事や自営業を主としているなど多様な就業形態が定着



■ 農山漁村の生活活動等から生まれる多様な魅力、暮らしやすい生活環境の再生

■ スローライフを実現する基盤の整備

- ・ 自然環境に配慮した生産基盤、生活環境の一体的総合的な整備
- ・ 美しい景観を維持・回復する取組みの推進



生活環境の一体的・総合的な整備



美しい景観を維持・回復するための取組み



■ 農林水産業の多面的機能の重要性の再認識

- ・ 水源かん養、文化の継承等の多面的側面の再認識
- ・ 都市と農山漁村の交流連携や担い手育成等の活動を推進

農山漁村が持つ多面的機能



これらの機能を維持するための活動



■ 農山漁村を支える農林水産業等の新たな展開

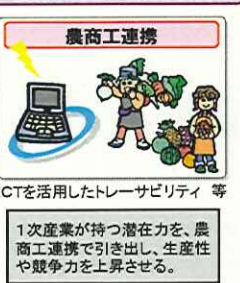
■ 適切な農林水産業等の転換

- ・ 農業経営の法人化、企業等の大規模農営の推進
- ・ 農林水産業を自然体験、農商工連携等に結びつけ、新たな展開の推進

大規模営農等による効率的経営



農林水産業の新たな展開



■ 新たな担い手の確保

- ・ 農林水産業への新規就業や農地の流動化を高めることによる新規就農の推進

UJIターン等による新規就農



農地の流動化の推進



第2章第2節(1)② 自立的な生活圏域と機能補完・戦略的な連携

- モータリゼーションの進展や市町村合併等により市町村境に大きく依存しない交流連携や広域的な課題の内部化が進展
- 人口減少・高齢化、過疎化等により生活圏域の中心となる中小都市の停滞が進行
- とりわけ、中心商店街、中心市街地の空洞化が顕著

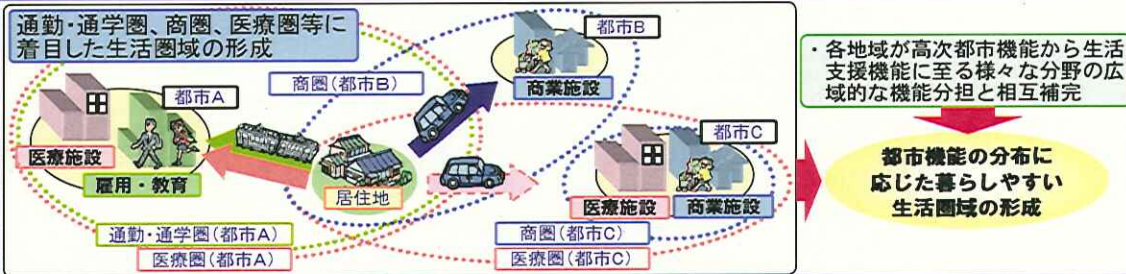
人口密度が低下する中で都市機能、生活支援機能の維持増進

- ・医療・福祉、教育等の社会的サービス、商業施設等の日常生活を支える都市機能、生活支援機能の広域的な確保
- ・生活中心都市における魅力ある都市環境、雇用機会の確保

■地域特性に応じた自立的な生活圏域の形成

■複数市町村からなる生活圏域の形成

- ・通勤・通学圏、商圈、医療圏等に着目した地域特性に応じた生活圏域の形成
- ・都市機能に着目した広域的な機能補完と連携



■生活圏域の拠点となる都市の中心市街地等の活性化

■生活中心都市の魅力ある雇用機会の確保

- ・新たな産業基盤の確立等による地域の雇用の場の再生



■生活中心都市の魅力ある都市環境の形成

- ・集約型都市構造への転換や公共交通の利便性の向上による魅力ある市街地の形成



■複数市町村の連携による都市機能の機能補完的・戦略的な連携

■複数市町村による機能補完・連携

- ・人口密度が低下する中で都市機能を維持増進する機能の集約化と供給地域の広域化の推進
- ・周辺市町村間での適切な役割分担と相互補完の促進



■都市機能を広域的に補完する環境の整備

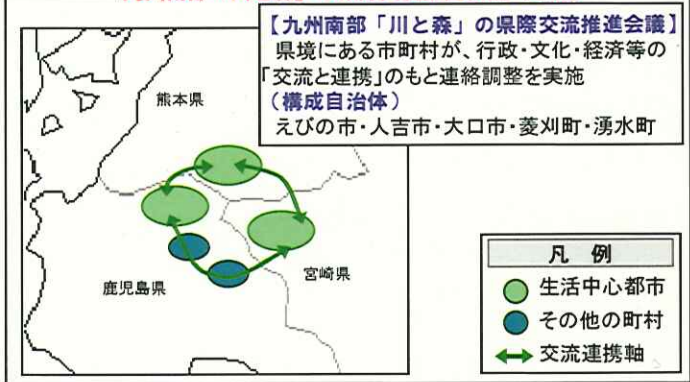
- ・都市機能を広域的に享受できる交通連携基盤として道路の整備、公共交通の充実・改善
- ・遠隔医療等の情報通信技術の活用による代替可能性を確保



▼生活中心都市における都市機能の分担(事例)



九州南部「川と森」の県際交流推進会議(事例)



第2章第2節(1)③ 都市機能を連結する広域的な地域連携軸の形成

■九州圏内には、高次都市機能が集積する基幹都市圏と生活関連サービスが提供可能な生活中心都市が適度な間隔で分散

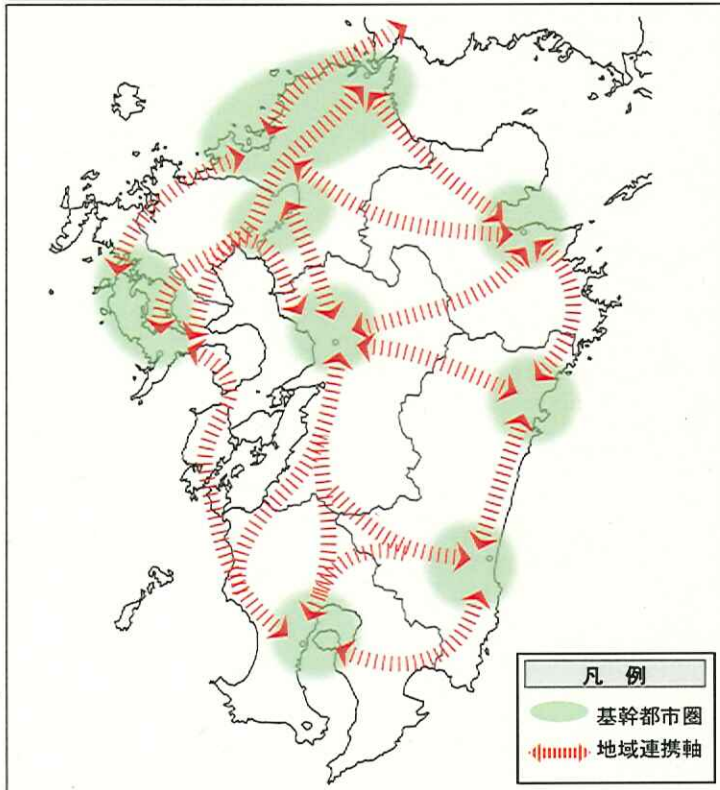
基幹都市圏等を結ぶ広域的な地域連携軸の形成

・九州圏の拠点性の高い都市圏や周辺地域に住む人々に質が高く多彩な活動の選択を可能とし、新たな発展を創出する観点から広域的な地域連携軸を形成

情報通信技術による生活イノベーションの実現

・都市部から農山漁村等まで、あらゆる地域に住まう人々の生活イノベーションを実現するための情報通信技術の活用

▼基幹都市圏を結ぶ地域連携軸 (イメージ)



■広域的な地域連携軸を支える高速交通ネットワークの形成

■基幹都市圏等を結ぶ地域連携軸の形成

・高次都市機能が集積する基幹都市圏等を結ぶ地域連携軸の形成
 ・海を隔てて近接する圏域との交流連携等を含め地域連携軸の形成



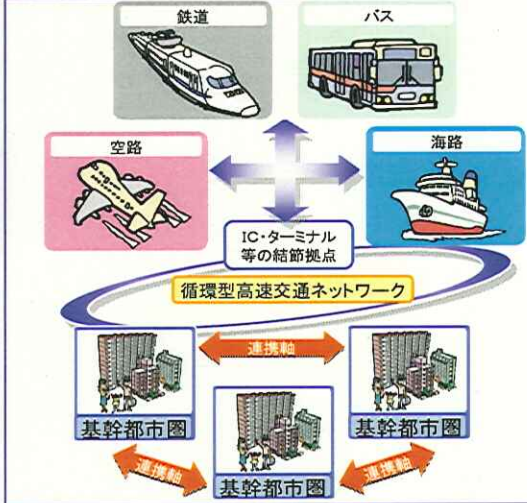
■広域的な交流連携を推進する連携軸の形成

・九州圏内の各都市圏や離島・半島、中山間地域等の間の機能分担・役割分担の形成



■地域連携軸、交流連携を支える基盤整備

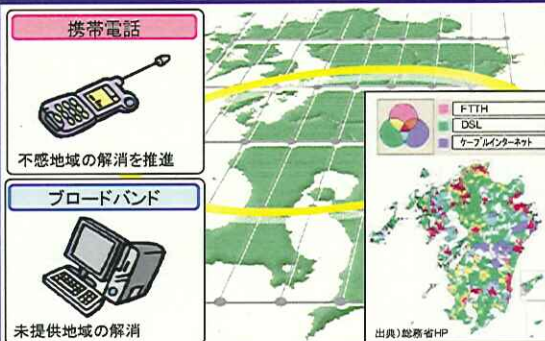
・基幹都市圏を結ぶ交通ネットワークとして循環型高速交通ネットワークの形成を推進
 ・高速ネットワークまでのアクセス改善
 ・公共交通、自動車等の連結強化等による移動の高速化・高度化の推進



■高速情報通信ネットワークの形成

■高度情報化社会の到来を享受する環境整備

・都市部から農山漁村まであらゆる地域の生活イノベーションを促進するため、携帯電話不感地域、ブロードバンド未提供地域解消を推進



■情報通信技術の活用能力の向上

・高齢者や障がいのある人を含めたすべての地域住民の情報通信技術の活用能力の向上



第2章第3節(2)① 都市と自然が享受できる交流連携の推進と豊かな二地域居住、定住環境の形成

- 都市住民が自然や農山漁村における豊かな暮らしを願望する等、求められる価値観やライフスタイルが多様化
- 九州圏では、多様なライフスタイルを実現するための個性ある地域づくりと交流連携が進展

都市と自然が享受できる多様な交流連携

- ・都市と豊かな自然地域における暮らし方、住まい方が共に享受できる多様な交流連携の推進

地域外の人々が理想の暮らしとして願望する定住環境の形成

- ・地域外の人々が理想の暮らしとして願望する豊かな二地域居住、定住環境の形成

個性ある地域づくりによる多様なライフスタイルの実現

- ・多様なニーズに対応し個性ある地域づくりと積極的な情報発信を推進

▼地域間の交流連携の取組(事例)

■農山漁村・自然体験に関する事例



島の自然学校・自然学塾村 (長崎県小値賀町)

小値賀町では、訪問者と住民との交流の推進と、小値賀の自然を後世に引き継ぐ事などを目的とした、新しい形のまちづくりの核として「自然学校」が開校している。

■人材育成に関する事例



九州ツーリズム大学 (熊本県小国町)

小国町では、「学びやの里づくり」構想が具体化され、1996年には(財)学びやの里が、多くの町民の浄財を基金に創設された。(財)学びやの里では「学習」と「交流」を基本理念に様々な学習・交流事業を展開している。

■廃校利用に関する事例



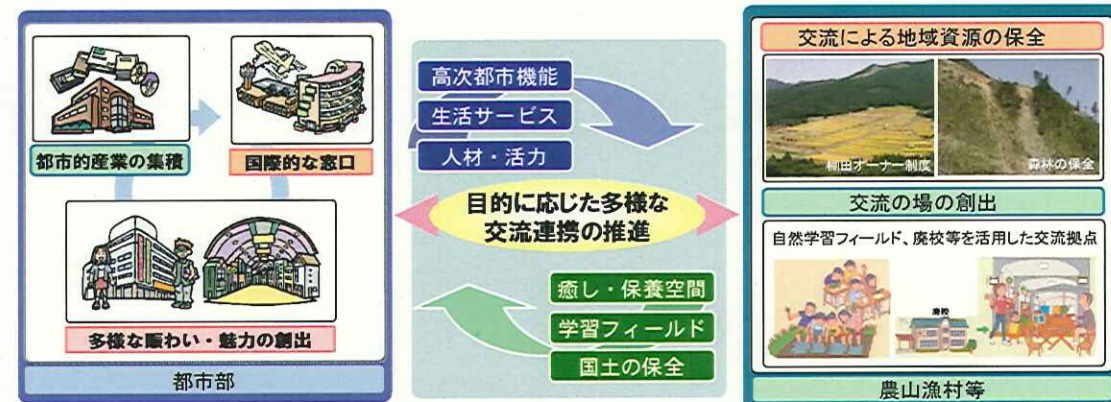
かわなべ森の学校 (鹿児島県川辺町)

川辺町の「かわなべ森の学校」では、廃校跡を舞台に、都市と農村の交流を通し、農村社会の地域づくりと都市生活者の癒しをテーマに活動している会員制の非営利ムラづくりのネットワークを形成している。

■都市と豊かな自然が享受できる多様な交流連携の推進

■地域間の交流連携による広域的取組の推進と地域の維持・活性化

- ・農山漁村、自然などの体験型交流、森林保全等の担い手確保などの目的に応じた多種多様な主体、目的、単位の交流連携の推進
- ・住民の様々な活動や企業の生産活動等に係る多様な選択肢の提供と新たな文化の創造



■都市と自然の双方が享受できる豊かな二地域居住、定住環境の形成

■様々なニーズに対応した二地域居住等の推進

- ・都市部の人材が農山漁村で再チャレンジできる仕組みや定年後の団塊の世代が田舎で再び活躍できる二地域居住、定住の受け皿づくりの形成

都市部の人材が農山漁村で再チャレンジできる受け皿の形成



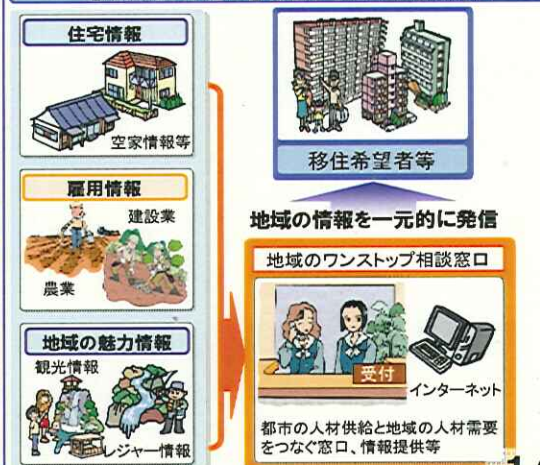
二地域居住や週末住民等の多様な居住を推進



■受け入れ側の積極的な情報提供の推進

- ・二地域居住、定住等を推進するための、住宅、雇用、地域特性等の様々な情報のワンストップ情報提供の推進

地域居住、定住等を促進するための情報提供



第2章第3節(1)① 民間主体の発意・活動を重視した自助努力による地域づくり

- 豊富な地域資源を活用した地域づくりや国際観光・交流等、地域活力を維持・向上させる先導的な地域づくりの進展
- 活力低下や社会的サービスの継続が困難になるなど地域づくりを進める上での課題が顕在化

伝統的な営みの再評価

- ・各地域で連綿と受け継がれている伝統的な生活活動を基軸とした営みの再評価

多様な主体の参画

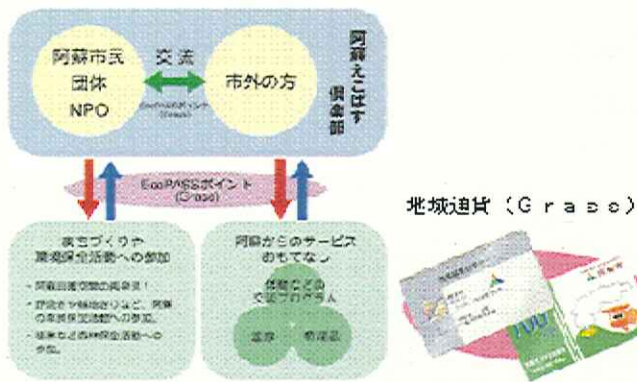
- ・公的な活動領域への多様な主体の参画による社会サービスの確保

地域資金循環の形成

- ・地域における様々な雇用機会や社会的サービスの確保に結びつく地域内資金循環の形成

▼先導的な地域づくり(事例)

- 阿蘇市は、「緑いきづく火の神の里」を将来像に、豊かな自然と笑顔あふれる国際環境観光都市を目指したまちづくりを展開
- この取り組みをさらに推進するために、地域全体を屋根のない博物館に見立て、地域資源を活かし農業と商工業と観光業の連携による住民主体の交流活動や環境学習の展開を図る「ASO田園空間博物館構想」を推進
- 参加者が楽しんで交流が繰り返し行われる仕組みとして地域通貨モデルシステムを導入し、都市との交流が盛んな活力ある地域の再生を目指す



■伝統的な営みを基軸とした自助努力による地域づくりの推進

■伝統的な営みを生かした主体的・総力的な取組の促進

- ・各地域に根付く伝統的な営みの重要性を再評価することにより、地域間連携・交流、地域防災、環境保全、まちづくり、地域づくり等の取組を推進



■「新たな公」を基軸とした地域づくりの推進

■多様な主体の協働によりサービス内容の充実を図る地域づくりの推進

- ・伝統的な営みを基軸とした地縁型のコミュニティに加え、NPO法人、大学等の教育機関、地域内外の個人等と、企業、大学も含めた様々な主体が、目的を相互に共有して連携しながら活動を継続
- ・地域における高齢者福祉、子育て、防犯・防災対策、居住環境整備、環境保全、公共交通の確保など従来の行政や民間主体の活動領域まで幅広い活動を推進



■持続可能な地域づくりを支える地域的な資金循環の形成

■地域の資金が地域に再投資される資金の小さな循環の形成

- ・CSR(企業の社会的責任)や個人の地域貢献意欲などによる志がある投資を促進し資金確保を図ることにより継続的な地域活動を推進
- ・コミュニティビジネスの展開や地域通貨の発行等の仕組みづくりによる地域の人材やノウハウ、施設、資金等の積極的な活用
- ・都市住民が里地里山、森林保全等に投資するなどの広域的な課題解決のための資金循環の形成

